

2022 年度（令和 4 年） 事業報告
及び

2023 年度（令和 5 年） 事業計画

認定 NPO 法人プール・ボランティア

2022 年度（令和 4 年） 事業報告 及び 2023 年度(令和 5 年) 事業計画

認定 NPO 法人プール・ボランティア
(以下「PV」と省略する。)

1. 事業報告期間	2022 年1月1日 ～ 2022 年 12 月 31 日
事業計画期間	2023 年1月1日 ～ 2023 年 12 月 31 日

2. 2022年度活動実績(2022年12月末現在)

■ボランティア会員

のべボランティア会員入水数	1,867名
ボランティア活動実人数	79名 (1回以上入水した実人数)
現ボランティア会員数	146名 (2022年度の最終会員番号 PV-1381)

■利用会員

のべ利用会員入水者数	1,699名
現利用会員数	53名 (法人会員を含む。)

■PV応援団(寄附会員)

86名

■寄附者

258名 (法人及び大阪マラソンの寄附者も含む。)

■会計実績

経常収益	20,553,758 円
経常費用	28,704,045 円
負債総額	52,106,045円
消費税納税額	0円 (消費税免税事業者のため)

3. 2022年度の活動総括

昨年の2021年度は「コロナに始まり、コロナで終わった。」という一年でしたが、今年の2022年度は、昨年と比べれば少しだけ復活の兆しが見えてきた一年でした。

でも、元に戻るにはまだまだ時間がかかる感じだな。

【嬉しいニュース】

- ① 2022年12月9日に、なんと！「NPO法人プール・ボランティア和歌山」が設立登記を済ませ誕生した。全国の都道府県に一つずつNPO法人プール・ボランティアの姉妹校をつくるという壮大な夢への第一歩である。拠点となるプールは全国屈指のいいプールである秋葉山プールである。理事長の中野朝子さんを、これからもとことん支援していきたい。これから先は、大変だろうな。でも、頑張れ！さらに、NPO法人プール・ボランティア新潟とNPO法人プール・ボランティア北海道とNPO法人プール・ボランティア京都が設立準備中である。
- ② 12月に「賀川豊彦賞」を受賞した。コロナの関係で東京での授賞式にはズームでしか参加できなかったけれど、この賞は素晴らしい賞です。この賞に恥じないように今後も精進していかなければならない。
- ③ 第11回大阪マラソンに6年連続で寄付先団体として採択されたこと。この報告書を書いている3月には、もう終了しているのだけど、特筆すべきはPVの事務局長の織田智子が5時間41分で完走したことである。そして、PVのボランティアたち40名が給水ボランティアとして大会に参加したことである。これからも、地元のNPOとして大阪マラソンを盛り上げていきたい。
- ④ 5月のラクタブ短水路マスターズ大会において、PVの利用会員の子どもたち8名が、全員同じ組で見事全員完泳ができたこと。涙、涙、である。それを支えてくれたボランティアさんたちには感謝しかない。
- ⑤ コロナでなかなか依頼がなかった障害者対応研修であるが、4月に宝塚のプールで、そして、11月には、兵庫県の加古川で初めての障害者対応研修(シンコースポーツ)を開催できた。

【悲しいニュース】

- ① 大阪府議会で、プール・ボランティアが提出した「目洗いシャワー撤廃」の議案が否決されたこと。なんと情けない結末だろう。もっと詳しく説明すればよかったと悔やまれる。ものすごくマニアックな内容だったからなあ。
- ② 2022年4月から、大阪地方裁判所で、システム会社の〇〇〇〇〇〇社との訴訟が始まった。この事業報告書を提出した時には、すでに和解が成立したのだけど、もめにもめたね。どこがいいシステム会社で、どこのシステム会社がNPOを食い物にしているのか、無知なNPOでは判断がつかないよ。NPOもこういう問題についての共有できるネットワークや自衛のための知識が必要だな。
- ③ これも、昨年と同じ。20年間、毎年開催していた年末の中ノ島中央公会堂「PV設立記念パーティー」も中止の決断をした。悲しすぎるわ。泣けるぜ。
- ④ 新しいボランティアが入ってこない。新しいボランティアが入ってこない。新しいボランティアが入ってこない。新しいボランティアが入ってこない。原因は、コロナの後遺症だな。
- ⑤ 借金が、ついに2000万円を超えた。どないすんねん。

4. 2023年度へ向けての活動計画

【2023年度の五大目標】

- ① 新ボランティア会員の入会 36名（夢やな）
- ② 新利用会員の入会 10名（待機児童になるなあ。）
- ③ 第12回大阪マラソンに採択されて成功させる。
- ④ 新しい次世代管理システムの構想を固める。（構想だけに終わりそう。資金がない。）
- ⑤ 東京になんとか進出する。（それにはまず大阪を安定させないと）

5. 7つの事業ごとの報告とそれぞれの来年度の目標

(1)障がい者・児の支援事業

今年度も、質的に素晴らしいサポートができて、とても満足している。指導能力の高いボランティア会員の増加が活動内容の充実につながっている。

来年度も、質の高いボランティアを一人でも多く獲得したい。

また、コロナの影響で利用会員が減少したので、利用会員も増やさなければならない。

この障がい者支援事業がPVの事業収入の本丸なのだから、安定した事業運営のためには、さらに充実していく必要がある。

(2)プール・リハビリ事業

来年度も、高齢者に限らず、肢体不自由者のためのいいリハビリに取り組んでいきたい。この事業は、手間と時間と費用がかかるが頑張りたい。平日の昼間のボランティアを、もっと確保する必要がある。この事業にPVの生き残る活路を見出したいのだけど、何をどうしていいものかわからないでいる。誰かいい知恵を貸してくれへんかなあ。

「リハビリの効果は、水泳練習の延長線上にある。」

(3)プール・オンブズマン事業

今年度も、いろいろな提言活動をした。指定管理者や行政の反応はとても鈍いものがあるが、地道に提言活動を継続することが大事なことだと考えている。

来年度も、各自治体やプールに対して積極的に働きかけ、障がい者を取り巻くプール環境の改善に少しでも努めたい。

この20年間の活動で、近畿圏のプールは、すごく良くなってきていると感じる。指定管理者や行政にも、少しずつ理解をしていただけるようになってきた。ただし、ほんまに少しずつ……。 「目洗いシャワーの撤廃運動」は、大阪維新の会の協力を得て、2022年の3月の府議会で審議され、否決された。なんでやねん！ 行政の壁は厚いなあ。

(4)障がい者用水着等企画開発事業

身体障がい者の場合、変形した身体にフィットする水着が市販の水着では手に入らない。そこで、水着メーカーのミズノさんをお願いして個別に作ってもらう橋渡しの活動をしている。

この事業も収益性がなく、派手な宣伝効果もないけれど、活動を継続することが大事なことである。

「プール専用車イス～サンダーバード 1 号」と重度身体障がい者用浮き具「うきうきくん」は、素晴らしい製品だと自慢したい。

これらを全国に売って、売って、売りまくろうと考えている。少しずつではあるけれど、売れてきている。

東京のツカサドルフィン(株)のカタログに大きく掲載されている。収益アップに貢献できるかなあ。

(5)障がい者対応研修普及事業及

今は、コロナで、ひと休み状態だけど、これからも大きく発展していく事業であるし、今後もチカラを注ぎたい事業である。2022 年の終わりごろから、少しずつ研修の依頼も増えてきている。

指定管理者制度は良い面も多いが、どの指定管理者も障がい者対応については、経験と知識がなさすぎると感じる。市民プールの「市民」の中には、障がい者も性的少数者も含まれているはず。もっともっと勉強してもらいたい。でないと、公営プールの運営など、できまへんで！

今年度は、ほぼすべての研修予約がキャンセルになってしまったけれど、来年度からは頑張りたい。

(6)PVマスターズチーム運営事業

2022 年度は、すべての大会が開催になったので、よかったよ。

会員間の親睦の意味もあるが、試合会場に掲示するPVの大段幕や参加人数の多さで、PVの知名度をさらにアップさせたい。そして、ボランティアの募集や啓発活動につないでいきたい。

リレーチームが増えてきたし、障がい児だけのリレーチームも組みたいので、今年度には、今までの「NPO-PV」チームに加えて「NPO-PV+(プラス)」を作った。一般のマスターズ大会に障がい児だけでリレーチームを作って出場するなんて素晴らしいことじゃないか！プール・ボランティアでは、10 年ほど前に日本で初めて障がい児だけでリレーチームを作って完泳できた実績がある。今年度、二回目の快挙を達成した。

6. 各会員についての報告と来年度への課題

(利用会員)

この一年は、利用会員の入会希望者は、少ししか増えていない。ボランティアが不足しているので、積極的な受け入れもできない。けれども、業者と間違えているような利用会員は入会させるべきではない。PVの基本理念に賛同していることは、入会の絶対条件である。

これからも、年齢、障害の内容、程度を問わず、どんどん受け入れていきたい。ボランティアさえ豊富にあればなあ…………。

(ボランティア会員)

ボランティア会員は、まだまだ不足である。質の良いボランティアの確保こそがPVの生命線であるという認識は設立以来 22 年間ずっと不変である。

年々応募してくるボランティア希望者の質的レベルが高くなってきていると同時に、事務局からボランティアに求めるレベルも高くなってきている。

入会したボランティア会員で1年後も継続して活動しているボランティアは、それほど多くない。指導能力のないボランティアはPVでは生き残れない。

ボランティア会員の獲得については自然の増加に任せてはいけない。高校水泳部、大学、専門学校、マスコミ、そして企業などに積極的にアタックして、一人でも多くの「泳げるボランティア」を獲得すべきである。

大阪の地下鉄の車内広告を検討しているが、お金がないので夢だけで終わってるなあ。

ところで、毎月のように、ボランティア同志の親睦会が開催されている。PVの財産は、こういう仲のいい素晴らしいボランティアさんたちであり、PVの事業は彼らによって支えられているのである。

ボランティア同志の結婚も、12組になった。素晴らしいことである。

ボランティア会員を動かしているものは、何だろうか？

彼らには、1回500円の交通費しか支給していないのであるから「お金」が目当てでないことは、明白である。

では、何か！

PVの職員は、常にそのことを考える必要がある。

ボランティアに支払う謝礼や交通費を二倍にしても三倍にしても、質のいいボランティアが集まるわけではけっしてない。

(PV 応援団と寄附金)

気軽に寄付行為ができる「PV応援団」が確実に成果をあげている。たくさんの金銭的支援者を集めることも大事であるが、PVの活動趣旨を理解し、真に協力者となっていただける方だけを対象とすべきだという方針が変わりはない。お金だけもらってもありがたくはないし、支援される側のチカラにはならないからである。

応援団以外の寄付金も、少しずつではあるけれど、着実に増えてきている。

7. 事故報告

PV事業において「安全」が最優先されることは当然のことである。事業収益やボランティア会員の安易な穴埋めの配置を「安全」に優先させてはならない。

常に、職員が肝に銘じておくべき大切なことである。

今年度も小さなケガや事故は日常的に発生したものの、この事業報告に記載しなければならない救急車を要請するような大きな事故は一つもなかったことにホッとしている。

しかし、扇町プールのトイレで、PVの子どもへの性的虐待があったことが判明した。詳しくは書けないが、腹が立つなんてもんじゃないで！情けねえ！

「いいボランティアによるマンツーマン体制」という質の高いサポートをしている限りにおいては、そうそう事故の発生などはない、と書きたいところだけれど、溺水事故を100パーセント未然に防ぐなんてことは、神様でなければできない芸当やで。

われわれは、これからも常に事故のリスクを負いながら活動していることを忘れてはならない。

特に、子どもの潜らせ方や活動中のテンカン発作の応急手当等については、「Pサイト」(会員だけが見ることのできるサイト)に掲載するなどして会員にしっかりと伝達していく。

8. 今後の展望

(1) 今後の展望

PV活動をひとつのコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスとして捉えるならば、われわれは常に変化する市場の動きに敏感でなければならない。自らの信念・使命(ミッション)を堅持しつつ、社会の動きに合わせた柔軟で自然な事業展開こそが必要である。

「自由」「ユニーク」「今までにない切り口」「小回りがきく」「楽しい」「感動」「充実感、満足感がある」「心意気、男気」「遊び心」「専門性」「決断が早い」「おもしろい」などのNPOの特性を常に意識し、お役所的、保身的な運営にならないように注意すべきである。

職員にとっても会員にとっても魅力的な組織でなければPVは成長できないし、強烈な個性がなければNPOとしての存在意義がないことも自覚すべきである。

ただ、冷静に見てもPV事業が今後大きく失速するような要因は今のところ見当たらない。

全国的に見ても、同様な活動をしている団体は皆無であり(オンリーワン)、社会的には追い風状態で、新型コロナのような不測の大きなアクシデントがない限り、このまま少しずつではあるが順調に発展すると予測している。

これからも、障害者の6K(暗い、怖い、汚い、臭い、気持ち悪い、関わりたくない)のイメージを、少しでも払拭して、障がい者も、スマイル、スマートでかっこよく、セクシーに泳ぐぞ。(PVの3つのS)

(2) 全国展開と事業規模の最適化の問題

毎年、全国からの問い合わせが多いが、特に首都圏からの問い合わせが群を抜いて多い。関東でPV事業を展開すれば大当たりすると思うのだが、今のところは、大阪だけで手一杯である。

戦略的には大阪で基盤を安定させるだけの収入をしっかりと確保できるようになるまで、地域的な拡大は目指さないほうが良いと考えている。

が、将来的には、関東圏にはぜひ、進出したい。

ところで、ドラッガーが言うように、事業の規模を考えることはとても重要である。

どれだけコンピューターに任せたとしても、最後のマッチング(利用会員とボランティア会員の相性などを考えて組み合わせること)については職員の手作業と感覚でするしかない。

ここは、コンピューターではできないところである。

職員がすべての利用会員の障害の内容や程度、性格、そして、すべてのボランティア会員の指導能力や個性を把握していなければ、この最終段階の組み合わせはできない。

そうすると、PVの二人の職員が展開できる事業の規模は、過去の経験から、だいたい年間のべ 4,000 名ほどである。

これ以上に事業規模を拡大することは、事業の質を落とし、事故を誘発することになる。

したがって、近畿圏については、現状がほとんどマックスであると思う。

今後の事業の拡大については、近畿圏以外の地域において、支部ではなく姉妹校など全く独立した組織と連携していくという方向がよいかもしれない。

今年度、「NPO法人プール・ボランティア和歌山」が設立した。そして、今、「NPO法人プール・ボランティア北海道」と「NPO 法人プール・ボランティア新潟」が設立準備中である。

わくわくするなあ。

全国制覇も、けっして夢やないで。

(3) 別の収入源の模索

現在の事業収入の手段以外に何か別方向からの収入を得る道を模索しなければならない。

それが、業務委託なのか、スポンサー収入なのか、広告収入なのか、講演料なのか、イベント収入なのか、支援費制度とのからみなのか、物品販売なのか、本を出版することによる印税なのか……。

ひょっとしたら、プール専用車イスや「うきうきくん」の売り上げが、この「別の収入」になるかもしれない。

この問題を解決しない限り、新職員を採用する財政的な基盤が確保できないよ。

(4) 行政との連携

マスコミなどで、NPOと行政との連携がどうのこうのと言われているが、現実には行政との連携については、かなり難しいものがある。行政側の熱意と工夫のなさ、コスト感覚のなさ、発想の貧困さ、動きの重さ、手続きのややこしさなどがあり、同一行動がとりにくいからである。

甘い「連携」などという言葉に踊らされないよう慎重に対応する必要がある。

このように書くと行政との連携を嫌っていると勘違いされるようであるが、むしろ逆であって、行政との良い連携については切望しているのである。社会を変える最も効率的な方法が、行政と仲良く手を組むことだからである。なんか一緒にでけへんかなあ。

(5) 指定管理者、民間企業との連携

プールを運営する指定管理者とは、上手にギブアンドテイクで連携していく必要がある。プール環境を良い方向に変え得る最も直接的な相手だからである。

顧問契約等を締結しているシンコー、翔成、ホス、宝塚、神奈川県的林水泳教室や、日頃から仲のいいミズノやオージー、コナミなど、少しずつPVの存在価値を認識してもらえるようになってきた。障がい者対応研修普及事業などを通して、もっと連携を濃くしていきたい。

民間企業との連携は、まだまだであるが、昨年、山本化学工業さん、東京のスポーツ寿苑さんと仲が良くなった。

なんか一緒にでけへんかなあ。

(6) IT技術のさらなる活用(会員管理システム)

ボランティア会員からの活動エントリーや、利用会員からのお休み連絡、日々のマッチング、交通費や会費などの精算、寄付金の整理、その他の会員管理などをしてくれる「管理システム」の存在は、すこぶる大きい。

職員の仕事が大きく軽減されるからである。

この「PVのオリジナルマッチングソフト」も、どんどん改良を加えていく必要があり、2020 年度には、4代目となるシステムが完成する予定であったけれど、これが大失敗。860 万円もかけたのに。

管理システム制作を依頼する業者選びの難しさを痛感した。

2022 年度からは別の開発会社に、5代目の管理システムの制作を依頼したが、これも全然、出来が悪くて大失敗。

どないなってんねん。

気を取り直して、別のシステム開発会社に6代目のシステム制作を依頼した。

この管理システムは、プール・ボランティアの生命線であり、心臓部である。

この先、プール・ボランティアがこの世界で生き残っていくためには、このシステムが必要なのである。

だから、この部分に投入する資金を惜しんではならない。

が、痛い！痛い！痛い！痛い！先立つものがないがな。支払いはどないすんねん。

また、会員だけが閲覧できる「Pサイト」も、情報の共有をすることができるので、事故の防止に大きな効果がある。

こういうことができるのも、IT 技術の進歩やなあ。

(7) ホームページの重要性とフェイスブック、ツイッター、ユーチューブなどの活用

ホームページは、重要と考えている。

2018 年度に新しいホームページが完成し、委託する業者も新しくしたが、大失敗。

2021 年度に別の委託業者に新たにホームページの製作を依頼したが、これも、もめにもめて大失敗。開発業者を見極める能力のなさに、愕然とした。

フェイスブックやツイッターやラインのような手段で他人と交流することについては好きではないし抵抗があるが、その大きな効果については認めざるを得ないので、今後も活用していきたい。

そして、今年度もおもしろ動画をユーチューブにいくつか発信した。

動画制作のために採用したデジタル顧問に頑張ってもらいたい。

(8) 職員の研修、福利厚生

PVの職員は超多忙で、休日はほとんどなく給料も安いうえに、いわゆる「持ち出し」も多い。

その一方で、たくさんのボランティアさんと気持ちのいい付き合いをし、たくさんの障がい児に優しく接するためには、ハイレベルの心の余裕や遊び心が必要である。みずみずしい感覚の有無が、直接、事業の良し悪しに響いてくる。したがって職員研修や福利厚生の充実などが重要になってくるのであるが財政的にそして時間的にあまり大がかりなことはできない。

そこで、安価で短時間で効果的な研修や福利厚生などに、来年度もチカラを入れていくつもりである。

吉本新喜劇を見てバカ笑いをするとか、心ときめく映画を見に行くとか、通天閣に登るとか、美味しいランチを食べに行くとか……いろいろとNPOらしいアイデアで職員の心の水分補給をしていきたい。

それでも、ここ数年は、かなり福利厚生を充実させてきている。

一般的に言って、NPOの職員が過酷な労働条件の下で働いているのは、その仕事に誇りを持ち、やりがいがあり、人間関係が良く、楽しいからである。

そのことを十分に認識し、理事長として少しでも快適な職場環境の維持、彼らの生活の安定に努めたいと思っている。

(9) 内部留保金(法人としての貯金)と借金の返済

2022 年度は 6 代目の管理システムを発注したり、ヘルプマーク・スイムキャップを全国に無償配布したりなど、出費が多くて財政的には真っ赤っかになってしまった。毎年、同じことを言ってるけど、どないしよう。頭が痛い。誰か「打ち出の小槌」をくれへんかなあ。

内部留保金を蓄え、3 ヶ月はアクシデントがあっても持ちこたえられるような基盤を作っていくという課題は、まだまだ遠い先の話しや。

同時に山ほどある借金も、少しずつ返済していきたい。できるんかなあ……。

日本政策金融公庫から 1000 万円、大阪商工信金から 500 万円の融資は、今後 10 年間で少しずつ返済していく。

しんどいけれど、ニッコリ笑顔で返済しまっせ。

(10) 新職員の採用

NPO法人にとって、事務所、専従職員、パソコンは三種の神器である。

しっかりと地に足をつけた事業運営を考えると、この三つは欠かせない。

そして、PVは、常に先駆的でプロフェッショナルでファッショナブルな組織でありたい。

2019 年 1 月に、隣の 901 号室に新事務所を移転したことによって、新しい職員やアルバイトが働きやすい

環境ができたと思う。

よい人材を採用し次世代に引き継いでいきたい。いわゆる「後継者」問題である。

現岡崎理事長は、もう高齢であり考え方も古くなってきているし、デジタル社会についていけない。

少しでも早く彼に戦力外通告をしなければならない！

そして、今後、10年以内に新しい理事長を見つけなければならない！

そして、活きのいい新職員を採用しなければならない！

そして、それができるような財政的な基盤を確立しなければならない！

(大変やん！)

9. 顧問、業務委託関係についての報告（★印は有償）

- ★弁護士……………小坂梨緑菜(PV-664/正会員)
- ★司法書士、社会保険労務士……………達富慎也(PV-163/正会員)
- ★弁理士……………西村弘(PV-957)
- ★行政書士……………横山佳代(PV-1083/正会員)
- ★税理士……………谷本晃(PV応援団)
- ★ホームページ、管理システム……………
- ★IT環境・保守……………株式会社イヴレス
- 理学療法士(PT)……………森本羽衣子(PV-588)
- 作業療法士(OT)……………該当者ナシ
- 言語聴覚士(ST)……………該当者ナシ
- ★水難救助関係顧問……………吹田光弘
- ★医療顧問団……………NPO 法人地域医療連繋団体.Needs (PV応援団)
- 技術顧問……………中島彰(PV-1035)
- 保険関係……………佐藤光子(PV-1285)
- ★写真担当……………NPO法人広報写真ボランティア(正会員)
- ★デジタル顧問……………鳥本光照(PV-1260)
- ★広報・ファンドレイジング顧問……………石井大輔
- 相談役(牧師)……………松本信章(PV-051/正会員)

10. 社員総会の開催状況

2021 年度 PV正会員総会

- 【日 時】 2022 年(令和 4 年) 3 月 13 日(日) 18:00～19:00
- 【場 所】 PV事務所
- 【社員総数】 10 名
- 【出席者数】 10 名
- 【内 容】 2021 年度 事業報告の承認
2021 年度 決算報告の承認
2022 年度 事業計画(案)の承認
2022 年度 予算(案)の承認

11. 理事会の開催状況

2022 年度 PV理事会

- 【日 時】 偶数月の第一日曜日に開催 19:00～20:00
- 【場 所】 PV事務所
- 【理事総数】 3 名